
祈り

成無己

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

祈り

【Nコード】

N7988B

【作者名】

成無己

【あらすじ】

流行病でたくさんの方が果てた。そして、今まさに果てようとする小さい村に一人の僧が訪れた。そこで一人の男の子と出会う。

（前書き）

正直、この作品のジャンルは自分でもよくわかりません。ご指摘していただければありがたいと思います。

冬に始まった流行病は、春にはほとんどなくなっていた。媒介となる人間がいなければそれ以上広がることはない。この病によつて、相当数の村が果ててしまった。そして、今まさに果てようとしている小さな村を、一人の若い僧が訪れていた。

不思議な光景だった。家などの建物はきれいに残っているのに、人はおろか家畜一匹見かけない。

春の柔らかい日差しに照らされて、村の時間は止まってしまったかのようだった。

僧の持つ杖、その上に飾られている鈴。澄んだ小さい音が村中に響き渡っていた。

その村で、僧が最初で最後に人間に会ったのは村のほぼ中央、井戸の前で男の子が腰を下ろしていた。

見た目は十かそこらだが、それは当てにはならなさそうだった。彼は幽鬼のように痩せ細り、その四肢は血の気が感じられないほどに白い。対照的に顔は赤く、額には玉のような汗が浮かんでいた。口というよりも喉から、ヒューヒューという風を裂くような音が聞こえる。

男の子が目を開ける、その瞳に力はなく、ただ黒いだけだった。僧は少し距離をとって膝を折り、聞いた。

「坊主、他の人はどうした？」

男の子は一度息を飲み込んでから、擦れた声を出す。

「病気で動けない人達は、たぶん、それぞれの家の中にいるよ。動ける人達は、東の山の向こうの、大きな町まで、僕らのために薬を買いに行ったんだ」

それからすまなさそうな顔をして言った。

「ごめんね。なにもなくて」

僧は目を閉じて首を横に振った。そして男の子が、もうしゃべるのもつらい事を察して最後に一つだけ聞いた。

「おまえなんで外にいるんだい？病気なら家で休んでなきゃだめだろっ？」

男の子はもう一度息を呑んだ。

「やっぱりそうなのかな？でもね、死んだおばあちゃんかね、子供はお天道様の下で遊ばないと体が弱くなる。って、よく言ってたんだ。もう病気だけど、暗い家の中より、明るい外のほうがいいかなあって、思ってたんだ」

男の子はそれだけ言うと、目を閉じて眠ってしまった。薄く小さな胸が懸命に、しかし弱々しく上下している。

僧はただ見ていた。

正直、自分はこの子が再び目を覚ますことを願っているのかどうかわからなかった。

子は、親がいるから子なのではないのだろうか？

村は、人がいるから村ではないのだろうか？

親に見捨てられた子供。人に捨てられた村。

存在を否定されても、存在するもの。

僧は目を閉じて目に焼き付ける。

祈りはなく、ただ覚えていようと思った。

杖の先の鈴が、風に揺れて小さく鳴った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7988b/>

祈り

2011年1月4日02時55分発行